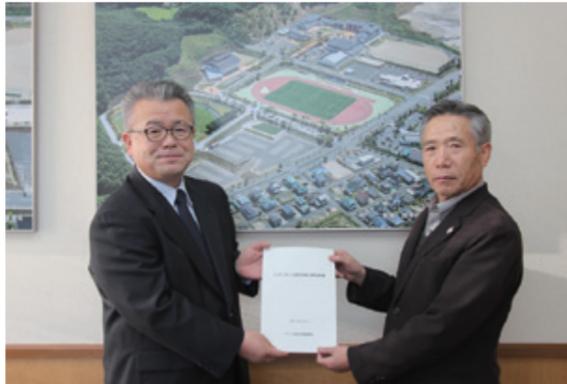


## スポーツ公園利活用準備委員会 検討結果をまとめ報告書を提出



スポーツ公園竣工写真が飾られている教育長室で菅野委員長(右)から報告書を受け取る中井田教育長

昨年8月にオープンした「いいいてスポーツ公園」の利活用について協議してきた「スポーツ公園利活用準備委員会(菅野茂委員長)」が、2月5日、「いいいてスポーツ公園の利活用に関する報告書」を中井田教育長に提出しました。報告書は、「合宿誘致の推進」「イベントによる利用促進・施設の周知」などの4項目を挙げ、具体的な事業例で「スポーツを通じた新たな村づくり」を提案しています。中井田教育長は、10回にわたる熱心な協議と、建設的な提案に感謝を述べました。

## デザインも楽しもう！ クラフト教室が開かれました

1月25日、交流センター「ふれ愛館」で、菅野弘美さん(比曾)を講師に、生涯学習事業「クラフト教室」が開かれ、参加者が、クラフトバンドと呼ばれる紙紐を使った小物入れの製作に挑戦しました。クラフトバンドは、好きな色の組み合わせを選び、縦横の長さにカットして編んでいきます。参加者の皆さんは、作業に集中して、ものづくりの楽しさを満喫。ていねいに仕上げた作品を見せ合い、会話をはずませました。



作業の途中で疑問があれば、講師に直接質問したり教え合ったり。和気あいあいと作業を進めました

## 絵本作家いせひでこ先生と キャンバスに描く「心の窓」



個性豊かな窓が並び、一つの作品になります。窓の間の壁の部分を見童と一緒に描くいせ先生(右端)

特別授業や作品展示などでご支援をいただいている絵本作家のいせひでこ先生。今年も2月13・14日に、小学校で絵の授業を行っていただきました。5・6年生は1日目、窓の写真をモチーフに即興で物語を創作。そこからさらに想像の翼を広げて「窓から見える心の風景」を下絵に描きました。2日目は、下絵を元に大きなキャンバスにアクリル絵の具で窓を描きます。創作の楽しさに浸った子ども達は、わくわくが止まらない様子で「のびのび描ける」「ものすごく楽しい」と話していました。

## 宇宙神代桜の苗木 「きぼうの桜」贈呈式

2月1日、山梨県北杜市で、「きぼうの桜」贈呈式が行われ、門馬副村長が、渡辺英子北杜市長から「宇宙神代桜」の苗木の寄贈を受けました。「宇宙神代桜」は、平成20年に、宇宙飛行士・若田光一さんと共に宇宙を旅した種から育てられた桜で、樹齢2,000年と伝わる北杜市の神代桜の子どもです。再生のシンボルとして被災各地で桜を植える「きぼうの桜」プロジェクトの一環として、村では、3月11日に、この苗を子どもたちの手で、学校周辺に植樹する予定です。



左から門馬副村長、渡辺市長、村の支援自治体として共に寄贈を受けた埼玉県吉川市の中原恵人市長

## カルタやお手玉、紙風船も 昔ながらの遊びで笑顔の交流



2日目は3歳児が交流しました。動物の絵札を取るこのカルタ遊びも大人気。交互に何度も遊んでいました

2月14・15日の2日間、「までの里のこども園」で、園児が高齢者と交流しました。これは、福島県老人クラブ連合会が被災地の世代間交流を進めようとしている事業の一環で、村老人クラブが南相馬市鹿島地区の老人クラブとタイアップする形で実現しました。昔遊びを通して交流を楽しんだ子ども達は、終わりの時間が近づくと「もう帰るの」と名残惜しい様子。それでも「楽しかったね」「パワーをもらいましたよ」と皆さんから声を掛けていただくと、「ありがとうございました」と元気にお礼を伝えていました。

## 自分史集「飯舘村に生きて」 贈呈式で完成を報告

村は、村の歩みを後世に伝える取り組みの一つとして、村民の自分史を本にまとめる事業を行っています。今年度は20の方を対象に聞き取りを行い、20編の自分史を1冊にまとめました。完成した本のタイトルは、「飯舘村に生きて 20人の足跡」。2月4日には、サポートセンター「つながっぺ」で贈呈式が行われ、代表で出席した5人の村民に、できたての本が手渡されました。本を受け取った皆さんは、「子孫に伝えたい思いをこめた。立派な本になりありがたい」など感謝を伝えていました。



贈呈式の様子。事業に協力した福島大学の学生(右の列)から5人の村民に自分史集が手渡されました